

## 蒲生干潟の地形調査④

### ■6月・8月の潟湖の大きさと、河口付近の地形の変化

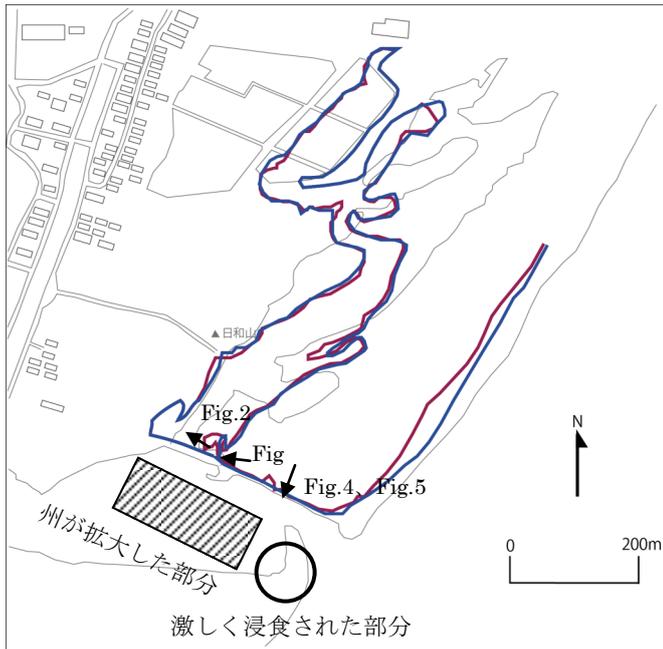


Fig.1 6月23日・8月6日の汀線の簡易測量結果



Fig.4 激しく浸食された対岸

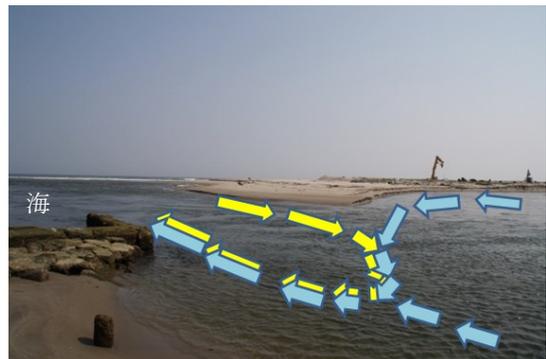


Fig.5 河口付近の水の流れ



Fig.2 潟湖から流れ出る水 東側から撮影



Fig.3 河口付近で拡大した州

6月23日および8月6日に地形調査を行った。6月は干潮時刻の1時間前に調査を始め、8月は干潮時刻と同時に調査を行った。Fig.1で赤い軌跡が6月、青い軌跡が8月のものである。干潮時刻頃に調査を始めたのにも関わらず、6月の方が潟湖の面積が小さい結果となった。潟湖内には導流堤の通水部分からのみ川の水が供給されるため、通水部分より川の水の水位が高くなると潟湖の面積は拡大しない。逆に通水部分より川の水の水位が低いときは、潟湖の水は川に流れ続けるために面積は小さくなる。8月の調査中も潟湖の水は川に流れ続けていた(Fig.2)。6月と8月では同じ干潮時でも潮位に違いがあり、今後は潟湖の面積と潮位との関係についても継続して調査し、詳しい関係を明らかにしていきたい。

河口付近ではFig.1の斜線部分に州が拡大していた(Fig.3)。対岸では、Fig.1で○で表した付近に激しく浸食されたようすが確認された(Fig.4)。また河口付近ではFig.5のような水流が確認された。黄色の矢印は海からの水流で青色の矢印は川からの水流の方向を表している。川からの水流と海からの水流がぶつかった部分では、水流は曲げられ再び海に向けて進んでいた。Fig.3の河口付近の州の拡大やFig.4の対岸の浸食は、これらの水流の影響を受けている可能性もあるので、今後も調査を続け明らかにしていきたい。(中田 晋)